

事業所名

放課後等デイサービス スマイル

支援プログラム

作成日

7

年

3

月

15

日

法人（事業所）理念	こころとからだに働きかける！！運動による子供自立支援		
支援方針	社会生活に必要な能力や身辺自立に向けた能力向上が図れる様に支援していきます。		
営業時間	9時	0分から	18時0分まで
	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	定期的な心身の把握（毎回体温測定・気分把握） 構造化を意識した部屋のレイアウト・掲示・支援 生活リズムの安定	
	運動・感覚	視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚活動 ビジョントレーニング 指先トレーニング 音楽に合わせて体を動かす遊びや運動	
	認知・行動	1日の時間帯別活動を示すタイムテーブルの確認による時間の認知 粘土、スライムによる物質の変化と感覚の認知形成 季節の変化への興味などの感性形成のための外出・行動	
	言語コミュニケーション	文字・記号、絵カード、機器等の適切なコミュニケーション手段を選択・活用 はじまりの会で今日の気分・気持ちをプレゼンテーションして言語表出・受容 ・終わりの会で活動振り返りと気持ちをプレゼンテーションして言語表出・受容 ルールなどを絵や絵カードを使って視覚化	
	人間関係 社会性	活動前に全体を指差しする等を行い、全体を見渡す機会の設定 見本になるこどもの近くに誘う等の関わり・促し ルールの理解が必要な遊びや集団活動 地域施設などへの社会見学 イベントなどを通じた地域との交流	
家族支援	相談等、随時お受けいたします。 定期または必要に応じて情報共有を行い、計画の充実を図っていきます。	移行支援	新入学や進級時の情報共有をおこなってきます。
地域支援・地域連携	地域包括支援センターに相談や担当相談員さんと変化の共有。 学校での様子の共有をおこなってます。	職員の質の向上	社内外で毎月研修を受講する機会を確保しております。 スタッフ同士の情報共有や連携を行う機会を設けております。
主な行事等	毎月誕生日会や季節の制作。学校休みの日の外出（遊園地、公園、プールなど）市の行事への参加（ふるさと祭り、産業祭り、出初式など）地域の行事への参加（夏祭り、フリーマーケットなど）		

5領域とのつながりを明確化した支援内容

令和7年3月15日

放課後等デイサービス / 放課後等デイサービス スマイル

項目	主なねらい
健康・生活	・健康状態の維持や改善
	・生活リズムや生活習慣の形成
	・基本的な生活スキルの獲得
<p>【健康状態の把握】</p> <p>①幼稚園や学校、ご自宅送迎時に先生あるいは御家族より当日の体調の様子を伺います。</p> <p>②送迎車内では会話を交えつつ、その日のご本人の気分把握もさせていただきます。</p> <p>③スマイル到着後には検温、視診を行い日々の健康状態を記録しております。</p> <p>④“鼻水が出る”“咳が出る”など自らの体調への意識へつながる様、鼻をかむ行為やマスクの着用の促し支援を行います。</p> <p>⑤月に1回 身長体重の測定を行い、ご本人や御家族へ周知させていただき自身の体の変化を実感してもらっております。</p> <p>【健康状態の維持・改善】</p> <p>①スマイル室内での運動遊びやストレッチ…筋力トレーニングの他、近隣の公園にて鬼ごっこなど多くの運動プログラムを取り入れており体力の維持、運動能力の向上を図っております。</p> <p>②リトミックやダンスプログラムを取り入れ、“運動が楽しい！”と思ってもらえるよう支援いたします。</p> <p>③幼稚園や学校がお休みの日には生活のリズムの乱れを防ぎ規則正しい生活を行うことを目的とし、通常登校(登園)と同じ様な時間帯でお迎えに伺います。</p> <p>【基本的な生活スキルの獲得】</p> <p>①個別支援の一環として来所後の行動をルーティン化。手順書を活用しつつ利用者に合わせた支援 ≪“声かけのみ”“文章のみの視覚掲示”“文章&イラストでの視覚掲示”“イラストでのTODOリストの活用”≫などを各々自身で行ってもらい、自身の周りの整理整頓への意識を高めてもらいます。</p> <p>②スマイルでの昼食やおやつ後“自身のお弁当箱やお皿は自身で洗い場に持っていき使用した机を拭く。”など普段生活の中で必要な行動はすべて本人に行っていただけよう付き添い、支援いたします。</p> <p>【構造化等により生活環境を整える】</p> <p>①スマイルは広めのワンフロアの作りで“下記”に意識をおき環境設備を行い療育を提供しております。 ≪たくさん体を動かしてもらえよう≫ ≪一人ひとりの特性に合わせて声掛けや指示だしのタイミングや状況理解が出来るよう、一目で理解できる環境≫</p> <p>②個別での活動の際にはパーティションを活用し室内のフロアをわけて支援を行っております。</p>	

項目	主なねらい
運動・感覚	・姿勢と運動・動作の向上
	・姿勢と運動・動作の補助的手段の活用
	・保有する感覚の総合的な活用
<p>【姿勢と運動・動作の向上】</p> <p>①“手洗いうがい、排泄、食事”などの生活内での基本動作を主軸に、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や運動・動作の改善及び取得を行います。</p> <p>②豆掴みゲームやなどの机上課題や、紐遠しなどの手指トレーニングを通じて筋力の維持・強化を図ります。</p> <p>③定期的に“こども脳機能バランサー”を用いてビジョントレーニングを行い、「見て、わかる」見るチカラを鍛えます。</p> <p>④スタッフ考案の感覚(ここでは視覚、聴覚、触覚、固有覚、前庭覚をさす)を生かした感覚活動プログラムを行い、支援いたします。</p> <p>【補助的な手段の活用】</p> <p>①着用している眼鏡や食事に於いてはスプーンやフォーク、お箸など各種の補助ツールを効果的に活用できるよう支援いたします。</p> <p>②スマイルでは一人ひとりの感覚を活用出来るよう、臨時使用用のイヤマフや個室の用意をしております。</p> <p>③五感で楽しめる季節に応じた制作活動を提供。基本的な感覚を楽しみながら自身で感じられるように支援いたします。</p> <p>④季節の変化への興味など感性形成のため、その季節に合わせた外出イベントやクッキングなどを取り入れています。</p> <p>【保有する感覚の活用】</p> <p>①保有する感覚を最大限に生かす事が出来るように、さまざまな遊びを通じながら支援いたします。</p> <p>②幼稚園や学校がお休みの日にはスタッフ含む全員で昼食をとり、会話を交えつつ楽しく感覚の刺激を促します。</p> <p>③縄跳びや平均台、バランス感覚などの体の使い方や強弱・方向の感覚を見つけられるように支援いたします。</p> <p>④音楽に合わせて行うあそびやリズム、ダンスなどを行いリズム感覚を生かせる支援をいたします。</p>	

項目	主なねらい
認知・行動	・ 認知の発達と行動の取得
	・ 空間、時間、数等の概念形成の取得
	・ 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の取得
<p>【認知の発達と行動の取得】</p> <p>①一人ひとりの特性に応じた五感を十分に活用して必要な情報を収集しやすいように、色や形(絵や文字)、音や声、香りや味、さわり心地や温度が直接わかる様に 認知機能の発達を促すことのできるあそびやプログラムを提供いたします。</p> <p>②個別・集団活動の中で活動内容から情報を取りやすいように“文字やイラストを用いて手順を説明”“スタッフが見本を演じて説明”など 目で見てわかるように行い、実際に自ら行動につなげられるように支援いたします。</p> <p>【空間・時間・数等の概念形成の習得】</p> <p>①多い少ない、大きい小さい、長い短いなどの概念が目で見えて理解できるよう具体的な対象物を用いて支援いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あそびのなかでブロックの数、ボールの大小、紐の長さを認識し視覚的要素から形成概念を促します。 ・ “時刻”と“分”がわかる時計を用いて時間感覚が見につくよう声掛け支援いたします。 ・ 1日の流れをフロア内のホワイトボードに記載、掲示して時間の概念形成を促します。 ・ ≪フロアを部屋ごとに床色を変える≫ ≪パーティションでの区切り≫など、具体的活動内容の仕分けを行い概念形成を促します。 ・ 粘土やスライム、キネティックサンドなどを用いて物質の変化と感覚の認知形成を促します。 <p>【対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の取得】</p> <p>①イラストや写真、ホワイトボードなどを用いて≪自身で理解≫ ≪理解できる情報を処理≫ ≪自身で選択≫の一連の動作が出来る環境を整え 一人ひとりの特性に配慮し支援いたします。</p> <p>②食事やおやつ等を含め、こだわりや偏食についても部分的に自らが解除出来るように支援いたします。</p>	

項目	主なねらい
言語・コミュニケーション	・言語の形成とコミュニケーション
	・言語の受容及び表出
	・コミュニケーションの基礎的能力の向上と手段の選択と活用
<p>【言語形成と活用】</p> <p>①一人ひとりの特性に合わせて具体的な体験や意味の理解ができるように目で見えて理解できる内容を掲示します。 その内容をスタッフが代弁し、声や言葉・音として覚えられるように支援いたします。</p> <p>②プログラム活動時にはイラストやホワイトボードを活用し、視覚化して行います。</p> <p>③文字・記号、イラストカードなどを遊びやプログラムの中で使用し、適切な言語形成を促していきます。</p> <p>【言語の受容及び表出】</p> <p>①スマイルでは一人ひとりの特性に合わせて寄り添いつつ 活動中、積極的に会話を取り入れていき“伝えたい！”“発信したい！”と思ってもらえるような信頼関係を構築していきます。</p> <p>②自身の要求を伝えづらい場合にはスタッフが付き添い、一緒に表出の仕方を思索していきます。</p> <p>③始まりの会にて“今の気分(気持ち)”や“みんなに伝えたい事”を。終わりの会にて“今の気分(気持ち)”“活動の振り返り”を自らプレゼンテーションしていただき表出、お友達の話聞いて理解し受容する活動を行います。</p> <p>【コミュニケーション基礎的能力の向上と手段の選択と活用】</p> <p>①言語的コミュニケーションが図れるお子様に対して、正しい言葉の理解と活用方法を繰り返しその場面に応じて伝え、支援いたします。</p> <p>②非言語的コミュニケーションが図れるお子様に対して、場面に応じたジェスチャーや仕草、表情や態度を繰り返し伝え、時には文字・記号、イラストカードを使用し適切なコミュニケーション手段を活用し支援いたします。</p>	

項目	主なねらい
人間関係・社会性	・他者とのかかわり(人間関係)の形成
	・自己の理解と行動の調整
	・仲間づくりと集団への参加
<p>【アタッチメントの形成】</p> <p>①スマイルで過ごす中で“話す・聞く・触れる”などの様々なコミュニケーションを通して人との関係を意識してもらい家族や友達、スマイルスタッフなどの身近な人との信頼関係を構築していきます。 その信頼関係をベースに周囲の人や友達との安定した関係を形成するために支援を行います。</p> <p>②プログラム、様々な経験を通じてスタッフが一人ひとりの気持ちを聞き、または察し、時には代弁をして対人関係を円滑に促します。</p> <p>③スマイルでは友達とのコミュニケーションを柔軟に取れる機会とし、週1回～友達同士で遊びを考え、決定をし、自由に過ごせる時間をとり遊びの中ならではの安心感や信頼関係を築けるよう支援いたします。</p> <p>【自己の理解とコントロールの為の支援】</p> <p>①スタッフが一人ひとりの特性を理解したうえで状況の把握を行い、声掛けや指示の仕方を意識し、行います。</p> <p>②“できる・できない”等の自身の行動特性を理解し、気持ちや感情の調整が出来るように配慮して支援いたします。</p> <p>③感情のコントロールが難しくなった場合には別室で“今の気分(気持ち)”を聞き共感し、落ち着けるよう時間を取ります。 また、“なぜそうなったのか”“今後はどうしていくか(いきたいか)”などを寄り添いながら話し合い、自己の理解ができるよう支援いたします。</p> <p>【集団への参加と支援】</p> <p>①個別活動から始めていき集団活動に移行していきます。一人ひとりの特性を理解して状況や状態を把握し苦手意識を限りなく少なく配慮が出来るように促していきます。</p> <p>②安心して集団活動に参加が出来るようにスタッフが側にいることで安全第一となり、スタッフ自らが楽しんで参加ができるよう活動の設定を施します。</p> <p>③相手の気持ちや状況の理解が円滑に行えるようにスタッフが間に入り一人ひとりの気持ちを聞き、または察し、時には代弁をして相互関係が図れるように支援いたします。</p>	